



TITLE:

中央銀行役割の發展に就いて

AUTHOR(S):

松岡, 孝兒

CITATION:

松岡, 孝兒. 中央銀行役割の發展に就いて. 經濟論叢 1933, 36(1): 111-129

ISSUE DATE:

1933-01-01

URL:

<https://doi.org/10.14989/130271>

RIGHT:

京都市大學經濟學會 經濟叢論

第一號

第三十六卷

昭和八年一月一日發行

新年特別號

インフレーション財政策	法學博士 神戸 正雄
人口に關する小論	文學博士 高田 保馬
社會的に妥當なる農業經營規模に關するベルンハルデイの見解	經濟學士 八木芳之助
操短と生産費	經濟學士 大塚 一朗
資本論と一般均衡論	經濟學士 柴田 敬
中央銀行役割の發展に就いて	經濟學士 松岡 孝兒
預金通貨の貨幣的性質に就て	經濟學士 中谷 實
ケトレー直後の英佛統計學	法學博士 財部 靜治
土佐の育子策について	經濟學博士 本庄榮治郎
爲替心理説の批判	經濟學博士 谷口 吉彦
宇和島藩の蠟專賣	經濟學士 堀江 保藏
琉球農村共同體 <small>（我國民理想としての）</small> 『國民共同體』	經濟學博士 石川 興二
地方財政の改革	經濟學博士 汐見 三郎
漁業組合論	經濟學士 蛭川 虎三
二ツのインフレーション	經濟學博士 小島昌太郎
新着外國經濟雜誌主要論題	

（禁轉載）

中央銀行役割の發展に就いて

松岡孝兒

一、序 言

總じて最近、特に世界大戰後に於ける世界各國經濟事情の變化に注目するものは、一般に一の社會的組織が其の時代の環境の所産であること、従つてその組織上に於ける經濟機關も、その一の社會的存在たる限り、社會的經濟的環境の推移に應じて、或は徐々に、或は急劇に發展を遂げるものであることを極めて容易に認識するであらう。ここに謂ふ中央銀行も亦、或は獨立せる一の國民經濟に於いて、更にまた或は世界經濟に於ける一環としての國民經濟に於いて、等しく金融組織上に於ける一の中央機關として存在する限り、俱にこの主張の例外をなすものではない。

最近中央銀行役割に於けるこの間の事情は殊に世界各國國民經濟の發展を通じて觀察され、例へば各國民經濟の發展はここに其の國の中央銀行をして深く其の役割に沈潜せしめるに至り、¹⁾かくて戰後に於ける中央銀行の役割は、従前、少くも世界大戰前の中央銀行の役割に比較して、顯著なる發展を示しつつあると謂ひ得られる。

此の新動向は、形式的には戰後新に設立又は改造されるに至つた諸國中央銀行の定款規定を一

1) League of Nations: Principles and Methods of Financial Reconstruction Work. pp. 49-52.

讀するものの特に明かに看取し得るところである。²⁾併し此の事情はまた單に此等戦後に於いて設立または改造された諸國中央銀行のそれに限るわけではない。たとひ定款規定上には格別の規定を明示するに至らざるものに於いても、之を其の實質的役割並に其の變化に於いて考察するときには、尙且つ同様、そこではこの役割發展の大勢への順應の存在を否定することができない。

惟ふに中央銀行の役割は、同時に中央銀行の活動機能と不可分の關係にあるものである。だから中央銀行役割の發展は、むしろ同時に其の活動機能にも變化を來さしめつつあること、亦特に贅言を要しない。従つて中央銀行役割に於ける發展は、單に形式的にのみ現はれるばかりでなく、同時に實質的には、必然的に其の活動機能にも現はれ、特に後者への注目を、乃至は考察を深く促さしめるものである。かくてたとひ中央銀行に於ける役割の發展が、定款上明示されてゐなくても、其の採用せる又はしつつある活動方法の内容の發展の跡を諦視するときは、之を通じてそこにも尙ほ其の役割發展の大勢を主張することができると謂へる。

私は此の意味よりして以下中央銀行が、世界大戰を界とする其の前後に於いて、其の役割に著しき發展を示せることを説くと共に、更にそは亦同時に其の活動手段に於いても發展的影響を示しつつあるものであることを明にし、此等兩者の夫々に於ける内容を説明すると共に、更に此等兩者の相互的關係をも明瞭ならしめ、以て發展しつつある中央銀行の役割をば之と不可分の關係にある活動機能をも含みたる其の總貌に於いて、全面的に把握せんとするものである。

2) Cfr. Kisch and Elkin : Central Banks, pp. 163-396.

二、世界大戰を界とする中央銀行役割の發展

ここに謂ふ中央銀行はいふまでもなく中央發券銀行の意である。併し各國に於ける銀行組織の實際は、必ずしも此の意味に於ける單一集中的内容と一致してゐない。だが少くも世界大戰後に於いての此の方面の傾向は、一九二〇年プラツセル會議に於いて「中央銀行を有せざる國にあつては此の際必ず其の一行を設くべし」³⁾と決議して以來この主張に指導されてゐる。此の提議に基いて大戰後、オオストリヤ及舊ロシヤ帝國の一部、バルカン諸邦には中央銀行が新に設立され、南アメリカ諸國に於いても、更には南アフリカに於いても亦、同一原則が行はれた。また其他の國に於いては、從來既に中央銀行が存在せる國に於いても、かくの如き提議の消極的適用として、何れも中央銀行への改革を無用視することができなかつた。ベルギー、ノルウェエの中央銀行改革、イタリヤの發券銀行統一等の如き皆此の適例である⁴⁾。

此の點に對し世界大戰前の事情は如何？勿論歐洲主要國に於いては、中央發券銀行的色彩は濃厚であつたけれども、併し其の他の諸國に於いては、其の實際上に於ける徹底性は認められなかつた。特に此の間に於ける事情は北米合衆國に於いて最も顯著であつた。北米合衆國に於ける國立銀行が一九〇七年の恐慌に際會するに及び、各銀行は各々自行の立場よりのみの對策に腐心し、國民經濟的全體的立場よりする反省に缺くるところありしことは、ここに北米合衆國々民をして

3) International Financial Conference: Proceedings of the Conference. vol. I. Report of the Conference. p. 9.

4) これに對する例外はアイルランド自由國に於ける事情である。アイルランド銀行委員會は1926年の臨時報告に於いて中央銀行を設けこれに通貨統制を委託すべしとの意見を否決した。その理由は二つある第一は同自由國が大ブリテンの支配する經濟組織の一重要部分であること、第二は自由國に於ける中央銀行制

中央發券銀行設立への熟慮と斷行とを要請せしめるに至つた。

既にかくの如き事情の發生する限り、かくの如き中央發券銀行に於いて何が機能され、何が意圖されなければならないかといふことは十分明察されなければならない。

私は便宜上まづ中央銀行の意識し之を明文上に規定した目的自體について論じ、更に其の機能にまで移らんとするものであるが、その中についても先づ第一に、中央銀行の役割が其の目的を通じて世界大戰を標準とする其の前後に於いて、如何にその發展を遂げたかを取扱はんとするものである。

(A) 世界大戰前——世界大戰前に於いては、一般には中央銀行の目的は定款上に明示されてゐなかつた。總じて此の時代に於いては、中央銀行が中央銀行として行ふ機能は、一定本位に基いて銀行券を發行する貨幣制度の維持にあり、このことは中央銀行の本質上自明なことと考へられてゐたので、特に定款に於いては明示されなかつたと考へられる。このことは更に中央銀行が中央銀行としてもつ活動機能を通じて見るときに於いては一層容易に理解される。

私の知る限りにして誤りがなければ、かくの如き中央銀行の目的が明文上始めて示されるに至つたのは、一九一三年北米合衆國聯邦準備銀行規定の序に於いてである。然らば此くの如きに立入らしめた原因は何か？、周知の如く一九一三年北米合衆國聯邦準備銀行法の制定なるものは、一九〇七年に於ける恐慌の結果に於いて著しき影響を受けてゐる。従つて聯邦準備銀行に於いて

度に対する一般銀行の基礎は尙ほ未熟なることによるといふ。(Kisch and Elkin, op. cit. p. 14)

- 5) Edie, L. D.: The Banks and Prosperity, p. 21; Kisch and Elkin, op. cit. p. 5
6) Kemmerer, E. W.: The A B C of the Federal Reserve System, Preface; Kisch and Elkin: op. cit. pp. 6-7.

特にその目的を明記するに至れる所以のものは、實にかくの如き恐慌時に際して屢々獨立せる多數發券銀行が利己心に基き無政府的に活動せるに鑑み、ここに中央銀行を設立して特に其の活動目的を明示せるものであると考へられる。聯邦準備銀行法の序に於いて、特に「伸縮自在なる通貨の供給、商業手形の再割引、合衆國に於ける銀行業の一層有效なる監督」を以て聯邦準備銀行の目的として列舉せるを見ると、私は從來明示されなかつた中央銀行の目的なるものが、漸く其の經濟組織が高度化するに至れる資本主義社會の恐慌に於いて吟味され検討された結果、ここに一九一三年、始めて北米合衆國聯邦準備銀行規定に於いて明記され、それが其の後世界大戰を経て益々同様の經驗を深めるに至つて、遂に世界に於ける多數中央銀行に於いても亦、其の銀行目的を明示するに至れるものであると考へられる。

勿論このことは、前述せる如く、一九一三年聯邦準備銀行規定に於いて同銀行の目的が明示されるに至るまでは、中央銀行の役割がなかつたといふことを謂はんとするものではない。それは唯明文上に規定されなかつたといふに止まる。一たび中央銀行の營める活動機能——此の點については後に述べる——に注目するとき、そこには當然一定の役割即ち一定本位による銀行券の發行を通じての貨幣制度維持の如き目的を認めざるを得ない。

然らばそれは何が故に明文上に規定されなかつたか？、此の點については前にも少しく觸れたるが如く、例へば大戰前に於ける金本位制度及びそれに於ける銀行券發行の如きものは、一種の機

7) 日本銀行調査局：各國發券銀行及通貨關係法規，亞米利加合衆國の部 p. 1.; Kisch and Etkin: op cit. p. 396.

機械的自動的機構の上にたてる機能であつて、特に其の運用に於いて國民經濟的目的論的要素の重視を要しなかつたからであらう。⁸⁾ 唯次第に高次的發展を遂げるに至つた資本主義制社會の複雑性は、偶々一九〇七年の恐慌を經過するに及んで、例へば北米合衆國の如きは從來に於ける北米合衆國金融組織上の缺點を深刻に暴露するに至り、ここに遂に謂はゆる聯邦準備銀行組織に於いて全然從來に類なき原則の採用と共に、更に中央銀行の目的が意識的に明示されるに至つたものであると考へられる。

この大勢は、勿論世界大戰を經過せる戦後の金融財政復興期に於いて、再組織途上にある各國中央銀行を最も深く動かしたことは亦當然である。殊にそが再び金本位制度への復歸を決定し、金爲替本位制度の如きを推奨するに及んで、各國中央銀行の役割は其の本質上、從來の如く單に機械的自動的機構上に立つことを許さず、必然的に意識的に一定の目的による制度の運用を企圖せねばならなくなつた。かくして世界大戰後に於ける中央銀行の目的は、相次いで其等の定款規定に於いて明示されるに至つたものであると信ぜられる。

(B) 世界大戰後——世界大戰の終了後、各國中央銀行は如何なる本位制度によつて其の貨幣制度の運用を實行すべきかにさまよつた。然るに一九二〇年以後本位制度に關しては、ブラッセル及びジュネエヴの國際經濟會議を通じて、金本位制度への復歸が決定され、中央銀行役割については一九二一年スイス國立銀行が、其の定款第二條に於いて、「銀行の主たる任務は貨幣市場を規

8) このことは大戰後に於いても金本位制の運用を傳統的に豫想してゐる國に於いては依然として大體同一傾向を示してゐる。従つて中央銀行の目的は明記されてゐない。

整し、且つ支拂を容易ならしめるにある」と規定してより、一九二二年にはリトアニア、一九二四年にはドイツ、ダンチヒ、ハンガリヤ、一九二五年にはフィンランド、一九二六年にはブルガリヤ、一九二七年にはオオストリヤ、ポオランド、エストニヤ、ギリシヤ、最後に一九二九年にはルウマニヤ等々の國々は相次いで中央銀行の役割を認め、之をば其の定款に掲げるに至つた。¹⁰⁾併し少しく立入つて考察を進めるときは、此の間に於いても中央銀行の役割は、尙ほ一定の發展傾向を示してゐたと考へられる。

今、中央銀行の目的をば以上列舉せる諸國中央銀行の一々について之を示すことは煩はしい。故に其の中年次的に代表的と考へられるドイツ、オオストリヤ、ギリシヤの三銀行を選ぶこととする。先づその役割について一九二四年八月三十日の法律に於けるドイツのライヒス・バンク定款第一條に依れば、¹¹⁾「ライヒス・バンクは……國の全領域内に於ける正貨の流出を調節し、支拂を容易にし、資本の利用を助成することを任務とす」と規定してゐる。然るに一九二七年三月三十一日のオオストリヤ國立銀行定款第一條の規定によれば、¹²⁾「オオストリヤ國立銀行は……本定款に従ひオオストリヤ共和國の領域内に於いて通貨の流通を調節し支拂を容易ならしめ、資本の利用を助成し就中貴金屬及び價格の安定せる外國本位貨幣を以て表示せられたる資金（外國手形）集積により正貨支拂（銀行券を金屬に兌換すること）に備へ、且つ正貨支拂の開始後に於いては其の維持を確保することを任務とす」と規定してゐる。

9) Kisch and Elkin: op. cit. p. 396.

10) Kisch and Elkin: op. cit. pp. 163-396.

11) Dierschke und Müller: Die Notenbanken der Welt. S. 263.; Kisch and Elkin: op. cit. p. 226; 日本銀行調査局: 上掲法規・獨逸の部 p. 1

12) 日本銀行調査局: 上掲法規・奧太利の部 p. 7; Kisch and Elkin: op. cit. p. 168.

此等の二中央銀行定款規定によつて示されてゐる主たる役割は、前者即ちライヒス・バンクが専ら次の三點、即ち、

- 一、中央銀行の貨幣流通の調節、
- 二、中央銀行に於ける相殺による支拂決済、
- 三、中央銀行の資金利用の助成、

を目標としてゐるに對し、後者即ちオオストリヤ國立銀行のそれは、更に之に對して以上の外、
四、中央銀行により發行されたる銀行券の金價值安定のため必要なる手段の採用を目標とするものである。オオストリヤ銀行が、「就中貴金屬及び價格の安定せる外國貨幣を以て表示せられたる資金の集積により、正貨支拂に備へ且つ正貨支拂の開始後に於いてはその維持を確保するを任務とす」と規定するに至つてゐることも亦、正に此の所見を明文上に規定せるものに外ならぬ。

然るに發展傾向にある中央銀行の役割は、一九二七年九月のギリシャ中央銀行定款に於いて、最も簡單明瞭に止揚されてゐる。今回銀行定款第四條によれば、¹³⁾「銀行の第一義務は其の銀行券の全價值が安定するため必要なる手段をとることである。此の點に關し銀行は定款の定むる限りに於いてギリシャに於ける貨幣及び信用に對して其の統制を行ふ」と規定してゐる。これ實に中央銀行に於ける役割に關する客觀的事情が、單に列舉的に中央銀行の機能をあげてゐるに満足せ

13) Kisch and Elkin: op. cit. p. 274.

すして、積極的に中央銀行の貨幣及び信用に關する一般的統制をば本文規定上に——しかもアメリカ合衆國に於けるが如く序に於いてでなく——明記するに至れるものである。更にまたかくの如きは單にギリシャ銀行のみではない。エストニア銀行に於いても亦、略ぼ同一趣旨の規定が採用されてゐる。¹⁴⁾

以上私は専ら、中央銀行に於ける定款を通じて、中央銀行の形式的なる役割の發展に關する所見をのべた。以下更に立入つて實質的に此の點を究明したい。

今、かくの如き實質的な點よりして、各國中央銀行役割につき之を發展的に考へて見ると、世界大戰前に於ける中央銀行の役割は大體形式的には明示されてはゐなかつたけれども、實質的には専ら銀行券發行を通じての金本位による貨幣制度の維持にあつたことは已に前述の如くである。然るに聯邦準備銀行に於いて、それは序に於いてであつて本文に於いてではなくても、一たび一定の目的が明示されたといふこと、更には特に大戰後に於いて、一層包括的な内容を含む明確なる一定目的が、本文規定の劈頭部分に於いて實質的に規定されたといふことは、中央銀行が決して單に貨幣制度の善良なる管理者といふに止らず、更に進んで貨幣及び信用を通じて一般經濟の統制者乃至規整者としての立場の存することを認め、特に恐慌時には、銀行中の銀行として、貨幣信用一般に關する最高機關として、存在することを主張せんとするの傾向に向ひつつあるものであると謂ひ得られる。

14) Kisch and Elkin : op. cit. p. 246. (同銀行定款第二條：銀行の第一義務は其の銀行の金價値が安定のため必要なる手段をとることである。此の點に關し銀行は其の定款の定むる限りに於いて通貨及び信用に關して統制を行ふ)

上述せる點よりして發展しつつある中央銀行の役割に於いて、第一義的なものは遂に貨幣及び信用に於ける統制これである。ギリシャ銀行が發展しつつある多くの役割中に於いて、唯一窮極の殘されたる役割として、銀行中の銀行としての此の貨幣及び信用の統制を意圖してゐるといふことは、正に此の間の動向を示せる代表的なものであると謂ひ得られる。

かくの如き中央銀行の役割は、最近大部分の國が國內のみならず、國外に對しても金の自由移動を認めず、更に國內的には専ら強制流通による不換紙幣が貨幣として用ひられるに於いて益々難點を含みつつあるものと考へられる。特に此の事情は世界大戰後に於ける貨幣價值安定問題が、對内關係に於けるよりも對外關係に於いて著しく重要性を帶び來れるに及んで、愈々中央銀行による統制的貨幣價值安定問題は論議されるに至つた。別の機會に於いて、私が金爲替準備を論じ、政府貸上金を叙した理由の一も亦實は此の意味に於いてである。

かくて最近、對外的關係に於いて論議される中央銀行の役割には、最早從來に於けるが如く、特に正統學派的視角に於いて論議せられたるが如き單なる商業的要素より見たる重要性は少く、そこには寧ろ政治的要素、又は心理學的要素と稱せられるものが多分に横はつて居り、このことは謂はゆる投機的要素の加重と共に、一國中央銀行の役割として、特に考慮されなければならなくなつてゐる。かくの如き點よりする主張は已に相當古くから論ぜられたところである。例へば金爲替による在外資金のもつ貨幣價值安定上に於ける重要性の如きは、夙に一八七三年ベエジヨ

15) 拙稿：金爲替準備について(經濟論叢第32卷第3號)；一：金爲替準備の再吟味(經濟論叢第35卷第5號)參照

16) 拙稿：中央銀行の獨立性より見たる政府貸上金に就いて(經濟論叢第35卷第3號)參照

ツトの喝破せるところであり、¹⁷⁾また政府貸上金についても屢次の非常時に於いて各國中央銀行が夫々其の貨幣價值安定上に於ける障礙として經驗せるところであるが、¹⁸⁾特に大戰後に於ける事實は最も明かに此の間の消息を語つてゐる。

然らばかくの如き貨幣價值安定の義務が中央銀行の實質的役割にあるとして、其の義務は如何なる作用態を通じて果されつつあるか？これ即ち中央銀行に於いて課せられつつある役割の實踐的方法によつてである。¹⁹⁾が此の點については更に項を改めて論することとする。

三、役割の發展に應ずる中央銀行作用態の發展

以上私は専ら中央銀行規定の有無を中心とし、之によつて中央銀行役割の發展を述べた。形式的に見れば此の中央銀行に於ける明文上の規定は即ち同時に中央銀行の作用態に於ける變化を伴ふ。併しそれは現象形態上に於いてのみ然るのであつて、我々はかくの如き明文上の規定が現はれる事實自體の背後に、中央銀行の役割が、其の設立後に於ける社會の變化に應ずる限りに於ける機能を通じて、徐々に發展しつゝあることを察知しなければならない。

中央銀行の作用態の變化は、中央銀行の役割と密接に關係する。従つて中央銀行の有つ作用態の發展乃至轉向によつてその役割の内容も亦明かに自ら異つて来る。私は已に中央銀行役割が其の形式上に於いてのみならず、其の實質上にも發展を遂げてゐること、換言すれば中央銀行の役

17) Bagehot W.; Lombard Street, pp. 309-319.

18) 拙稿：上掲論文參照

19) Edie: The Banks and Prosperity: pp. 20-38.

割は一定金屬による機械的²⁰⁾自律的役割より發展して、其の意識的統制的役割に進んで來たことを述べた。即ち、從來、中央銀行は、明かに國民經濟に於いて、意識的役割に於ける統制者たるの自覺を缺き、その義務を免れてゐた。これ中央銀行の役割が専ら一定本位による貨幣制度の維持にあり、中央銀行の役割は例へば金本位制度の成立を認める限り、之を通じて機械的自律的にその貨幣價值安定の役割を營んでゐると考へられたからである。金準備の重要性も實は此の意味に於いて認められ、その必要なる作用も貨幣價值安定保護のためであると考へられてゐた。しかも實踐上に於いても亦それで十分であつた。

併し問題は今や時間的に其の辿るべき過程を辿つた。即ち中央銀行は經濟的活動の中心的計畫者としての役割を自覺し、之によつて其の本來の機能を主張せねばならない状態に立到つてゐる。此の點に對する吟味は極めて重要なものである。私は此の場合に於いても亦世界大戰を界とする前後に於いてこの作用態の内容の發展を吟味するであらう。

勿論ここでは本來中央銀行の作用態なるものが果して如何なるものであるかと謂ふが如きことを問題とするものではない。かくの如きは一國の經濟的機構、財政組織、金融組織等々につき中央銀行の有つ複雑なる關係の認識を待つて始めて可能だからである。だからここでの私の企圖は専ら中央銀行定款の關係よりして、中央銀行が其の役割を自覺する前後に於いて如何なる作用態と必然的關係に置かれるかを明かにせんとするものである。

20) 此の點に就いては異論がないでもない。例へば Kisch and Elkin, op. cit. pp. 6-7.

作用態に於ける中央銀行は其の國金融市場に對する關係を通じて注目すべき特長を示す。即ち最近對金融市場關係に關して、次第に一般商業銀行の地位が中央銀行のそれよりも向上させることは、相對的に中央銀行のそれに壓迫を加へるものであり、このことは中央銀行に對して一般商業銀行の共同聯合の存するに於いて特に然りである。

故に中央銀行が其の政策に於いて一般商業銀行を指導すること、また一般商業銀行の地位の向上せる時に於いてその政策を斟酌することは、兩者の一致又は協調として注目すべきところである。併しこの一致又は協調は屢々破れ、かくの如き場合に於いては中央銀行の活動方法には一定の干涉政策が加味せられ、惹いては一定の強制政策が行はれるに至る。²¹⁾これらの政策の必然的結果はここに中央銀行をして流通並に信用に對する統制を行はしめる。

以下私はまづ問題を世界大戰前中央銀行の行へる活動手段に限り、後更に世界大戰後のそれに移らう。

(A) 世界大戰前——世界大戰前に於いては既に述べたるが如く、中央銀行の役割は一定本位に基づく貨幣制度の維持にあつた。従つて其の役割の内容はまた同時に一定本位を通じての機械的な通貨及び信用の維持である。然らばこの意味に於いて中央銀行の役割を果すために如何なる作用態が必要とされてゐたか？

その最も重要なものは一般に割引であると謂はれる。²²⁾この中央銀行による割引政策なるもの

21) Ulrich. E.: Les principes de la réorganisation des banques centrales. p. 335
22) Loubet: La Banque de France et l'escompte. p. 11.; Shaw: The Theory and Principles of Central Banking, Chap. V.

は、中央銀行が一般金融市場割引率即ち一般銀行割引率をして中央銀行割引率に接近せしめ、少くも此等兩者の關係を相平行せしめるため、一定の方策が講ぜられなければならないことから生ずる。かくて資金の移動は割引政策を通じて行はれ、その限りに於いて通貨の價值は安定し、一國の金融市場は均衡を示し、一國の貨幣制度は確立する。しかも其の割引政策の動向も、後に述べる大戰後に於けるが如く、多面的なる中央銀行の活動性によらず、専ら一面的に金融市場、貨幣制度の自律的現象に即して動き來り動き去ると見られる。然るに世界大戰後に於いてはかくの如き割引政策の一面的運用は漸く其の效力を問題とされるに至つてゐる。蓋し大戰前の如く中央銀行の金融界に於ける地位尙ほ高き狀態に於いては、中央銀行の割引政策は之によつて金融市場を支配し、そは又更に必然的に一般商業銀行の割引政策をも支配せるものだからである。然るに世界大戰後に於ける一般商業銀行の著しき發展は、自ら中央銀行の支配力を冒し、そは金融市場從つてはまた貨幣制度に於ける自動的機構を破壊し、機械的作用を停止せしめる。

此の點に於いて注目すべき實例はポオランド及び日本に於ける例であると謂はれてゐる。²³⁾ポオランドに於いては一九二四年一度決定された貨幣單位「ズロティ」に對し、金フランと同一價值を與へんとしたが、中央銀行が一般市場に對する信用統制に完全を期し得ず、其の結果一般銀行による信用の極度なる膨脹が行はれ、遂にポオランド銀行の在外資金の極端なる涸渇を來し、一九二五年遂に其の案は放棄された。日本に於ける此の種の實例は尙ほ吾人の耳目に新なるものである。其の詳細には今は觸れない。唯此等の日本の實例はキッシンユ及びエルキンをして、「中央銀

23) Kisch and Elkin: op. cit. p. 9.

行に必須なる權威を缺くことから生ずる弱點は、日本に一度ならず起つた災害を見れば極めて明瞭である……中央銀行を中心とする金融組織にして必要な凝結力を缺くときはそこに危険の存することを肝に銘すべきである²⁴⁾」と言つてゐることを述べるに止めやう。

ここに於いて中央銀行の活動方法も亦、自ら中央銀行が其の國金融組織上に於ける地位によつて變化を來し、これと共に中央銀行役割の變化をも伴はざるを得なくなつて來た。併しこの點についても注意すべきことは、かくの如き中央銀行の役割が發展するに至れるときには、通常作用態に於いても亦既にかくの如き傾向の存在してゐることを語るものであるといふことである。換言すれば通常、作用態に於ける客觀的事情の變化こそは、むしろ其の役割の明文上に於ける規定を生むに至れるものであるとする點への注目である。

然らば大戰後に於ける中央銀行の役割の變動に伴ふ其の作用態に於ける變化は如何なるものであるか？この點については項を別にして論じやう。

(B)世界大戰後——今大戰後に於ける中央銀行の作用態を見るときは、前述せる傳統的政策たる割引率政策による機械的自動的色彩は次第に其の強度を薄め、新なる統制的計畫的活動方法が採用されるに至つた。今之を分つて左の四點より叙述せんとするものである。第一は通貨への統制²⁵⁾第二は金利への統制、第三は信用への統制、第四は政治的軍事的其他の目的への統制これである。

(1)通貨への統制——通貨の不安定即ち一般物價水準の著しい騰落は、之に應ずる經濟上の動搖

24) Kisch and Elkin : op. cit. pp. 9—10.

25) Edie : op. cit. p. 29.

を伴ふ。かくて今日の貨幣經濟組織が、貨幣契約の神聖を認める限り、貨幣價值の影響はあらゆる貨幣契約を通じて經濟社會に其の作用を及ぼす。

此の意味よりして貨幣價值安定の重要なことは極めて明瞭である。併しかくの如き目的の實現は容易ではない。貨幣購買力の測定者といはれる物價指數の如きも無條件には認められない。たとひ貨幣價值の安定が不當な變動に對する豫防となるとしても、其の豫防に於いて必要とされる豫見の技術は尙ほ幼稚であつて、到底信賴し得ない。²⁶⁾かくて此等の缺點に對しては、中央銀行は通貨安定に關する統制を實現せんとしても到底それに對し責任を負ひ得ない。此の責任を避けんとする態度は即ち中央銀行が政治的干渉乃至批難を避けんとするものであり、其の政策實施に當つての統制そのものの不十分、特に中央銀行の能力不足を重視してゐる結果である。

併しこのことは其の限りに於いて中央銀行による通貨統制への一定計畫が企圖され得ることを示すよすがともなる。また立入つて云へば、よしんばそこに多少の困難はあるとしても、此の種統制への企圖乃至計畫の實際は、此の方面に於いて最も容易であることをたやすく理解せしめるものでもある。²⁷⁾

(2) 金利への統制——最も簡單なる金利政策は、中央銀行が其の金利をして市場金利に従はしめることである。此の場合に於いて金利は、正に需要供給の自由法則によつて決定されると考へられるものであり、其の限りに於いて金利政策は全く機械的となる。

併し戦後の事情は必ずしも此の原則を認め得ない。中央銀行は市場金利に従ふよりもむしろ、

26) 拙譯：景氣豫測法の研究序文參照

27) 今日一般に云はれてゐる資本主義制社會に於ける統制經濟なるものは、主としてこの方面への關心を示してゐる。

之を指導し之を適當ならしめることの必要を認めしめてゐる。

かくの如き金利統制に於いて注目すべき問題は、金利の安定性と屈伸性との間に於ける矛盾である。蓋し市場を指導するといふ意味は適當の時に於いて金利を高め、又は之を低めなければならぬことを意味する。だからその屈伸性に於いては金利は時間的に一定の變化を示さなければいけない。またその安定性に於いては變化に一定の時間的間隔がなければならぬ。此の關係に於いて中央銀行金利は、市場金利に比して、必ずしも敏感に反應を示すことを要せず、時間的に見て著しく安定的である。

更に金利政策を有效ならしめるに於いて注目されてゐる一の問題は、公開市場政策の問題である。凡そ公定金利と市場金利との關係について市場金利を指導することの有效性は、一般に云つて中央銀行の行ふ公開市場政策に依存するが如く思はれる。²⁸⁾

抑この公開市場政策なるものは、中央銀行による直接的なる信用量の統制を指すものである。然るに金利政策なるものは等しく中央銀行によるとしても、單に間接的に之を指導するに過ぎないものであり、公開市場政策によることの屈伸性大なるに比し、その敏活性とその確實性に於いて遜色を免れない。従つてその有效性に於いては到底公開市場政策に匹敵し得ない。

(3)信用への統制²⁹⁾——信用が取引の需要に伴ふことは一般に認められたる公理である。併しこの内容は必ずしも單純ではない。蓋しこの取引の需要とは生産及び交換經濟全般に亘る需要だからである。

²⁸⁾ Hultegger: Die Bank von England S. 119. ff; Lacout: Le retour à l'étalon-or, p. 83; Burgess: The Reserve Banks and the Money Market, pp. 206-213.
²⁹⁾ Shaw: op.cit. pp. 178-181.

もしかの如きあらゆる經濟的活動の合成的結果に對して一定の尺度を示し、其の年々に於ける増加の趨勢値を見出し得るときは、正に其の國銀行に於ける貸付投資の總額はこの増加の趨勢値の示すものと同一物を示すと謂ひ得るであらう。謂はゆる取引の需要に應ずる信用の増加なるものの内容は、これによつて一定の標準を示し得るであらう。

かくの如き信用の内容にして明かとなるときは、ここに中央銀行の景氣對策は、謂はゆる景氣循環なるものの内容の研究と相俟つて貨幣政策を通じて行はれ、少くも之なき場合に比し、或る程度有利なる修正を加へ得るに至るであらう。中央銀行は此の間にあつて最も注意すべき政策の主體となる。

(4) 政治的・軍事的其他の目的への統制——中央銀行については已に其の獨立性³⁰⁾について述べたるが如く、政治的契機を否定するけれども、實際に於ける其の政策は此の政治的考察を無視し得ない。政治的理由として例へば國際會議に於いて、中央銀行が外國に對する政治的壓迫として當該國に有する資金の引上を行ふが如きことは、最近金問題を廻つて最も屢々經驗せるところである。其の他中央銀行が或は低利貸付のため特に金利を引下げ、或は來るべき選舉を控へて好景氣への刺戟的政策をとるが如き已に人口に膾炙せる事實である。

更にまた中央銀行は戰爭上最も注意すべき活動をなす。それは戰爭に對して金を準備し、戰爭に對して流動公債を發行するが如き、更に戰爭後に於いては賠償金問題に關して政府を助ける等、此の方面に於ける中央銀行の活動はまた無視し得ない。

30) 拙稿：中央銀行の獨立性について(經濟論叢第35卷第3號)參照

最後に中央銀行は、國際決濟銀行を通じて、國際間に於ける經濟上の結合を促進せしめるものであるが、此等の點に至つては世界的經濟活動の計畫性への問題を提供しつつあるものである。

四、結 言

以上私は中央銀行の役割が世界大戰を界とし、其の前後に於いて著しく發展を遂げたこと、そしてそれに於いて私は中央銀行の役割が單なる一定本位による貨幣制度の維持を中心とする通貨及び信用の一面的機械的調節より進んで、漸く一國進んでは世界經濟の中に於ける多面的有機的統制に移りつつあるものであることを語るものであると主張する。しかも私は其の間に於いても、およそ制度上の規定は經濟上の實質に於ける變化に對して極めて概念的形式的な存在であり、社會の實際は彈力性なき固定せる制度上の規定を離れて着々として發展しつつあることを看取らんとするものである。

私はまた中央銀行の役割乃至之に伴ふ活動は、正に其の戰前の謂はゆる正統學派的貨幣政策の外殻を打ち破つて、今日の經濟生活に應ずる統制的計畫性に基づく新目的の確立、並に其の發展に應ずるものであるといふことができると思ふ。自愛心に基づく自律性の效果は黒き疑惑に厚く塗りつぶされて、經濟的計畫性による第一步が正に轉向しつつある中央銀行の役割として乃至活動方法として踏み出された。ひとはここにも亦、資本主義制組織に於ける諸機關の發展に伴ふ新動向が何を語らねばならないかといふ新事實に目をつぶり得ないであらう。